
バカと妖怪と召喚獣

閃光の伯爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと妖怪と召喚獣

【Nコード】

N0175Y

【作者名】

閃光の伯爵

【あらすじ】

ぬらりひよんの孫とバカテスのクロス物です・駄文ですが読んでくれるとありがたいです・

すべての始まり

僕は奴良リクオ。

悪の総大将、また、蜘蛛魅猛霊の主ぬらりひよんの血を4分の1継いだぬらりひよんの孫だ。

今、高校生2度目の春が来ていている。つららといっしょに登校中。

「早くしないと遅れるよつらら。」

「待つてください若ー!」

去年もこんな感じだったよ。

「まったくしょうがないね。急がないと西村先生に怒られるよ?」

事実を述べている。あれ?あれは...

「吉井君?」

「あ、奴良君?だっつけ、隣は彼女?イチャつくのもいいけど、異端審問会にはれないようにと、急がないと遅刻だよ?」

やばい、そっいえば...

「一緒に行かない?吉井君。」

「うん、お言葉に甘えさせて。」

校門前になると鉄人こと西村先生が立っていた。

バカと鉄人とクラス分け

リクオside

「おまえ等遅刻だぞ！」

相変わらず青以上に声太いな。

「おはようございます、西村先生、あと遅刻してすみません。」

「おはよう、てっつん、相変わらず髪型、痛い痛い痛い！人が誉めようとしてるのに！」

自滅行為好きなのかな？

「及川、奴良はおはよう。吉井は西村先生と呼べ。あとこれだ、受け取れ。」

クラス分け表だ。僕達は宴会やってね、理由は花見するだけで七時から夜中まで飲み方が続き、テストに出れなかった。

「おまえらは休んでなかったらいい設備に行けたのにな。」
でも畳とかの方が落ち着くよね！。

「吉井、おまえは正真証明のバカだ！」

すごい、さすが観察処分者。

「おまえら急げよ、そろそろ始まるぞ。」

そーだ、ゆっくりしてる暇ないんだ。

「行こう、吉井君、つらら。」

「はい、若、じゃなくてリクオ様。」

あー、やっちゃったよ。

「リクオ君、及川さんとはどういう関係？」

やばい、ここはスルーをしよう。

「僕のことはリクオでいいよ。」

「なら、僕は明久で。」

新学期早々友達できてよかった。

第三幕 バカと代表とクラスメイト (前書き)

お気に入り登録してくださいありがとうございます。

第三幕 バカと代表とクラスメイト

リクオ side

「これが最高クラスの設備かー。」

広いし、リクライニングシートを含め色々ある。僕は和風なものが一番いいからここは落ち着かないと思うけど。

「リクオ、ついたよ。」

「僕から行かせてもらおうよ明久。」

クラスメートが気になる。

「おくれ「早く座れ三つ指怠け者！」はい？」

怠け者？初対面なのに罵倒されたよ。

「おっと、すまない。バカだと思ったんだ。」

明久は問題児だったからね。

「リクオ様。あいつ殺していいですか？」

つらら、それはないよ。マジで。

「今の君は学生なんだよ、つらら。」

妖力とか使ったらバレてしまう。

「つららちゃんだと！」x 4 2

つららは人気あつたしね。

「ところで君は？」

赤髪の長身男子の名前が分からない。

「俺は坂本雄二。このほとんど最低な人間の集まりであるこのクラスの最高成績者。つまり代表だ。明久も名前なら俺も名前で呼んでくれても構わない。」

じゃあ、呼ばせてもらおうかな。

「僕は奴良リクオ、こっちが及川つらら。」

「お前等がああ、学校でも妬まれるほどイチャついてるカップルというのは。」

はい？どんな噂？初めて聞いたよ。

「総員、構え！ 奴に地獄を…」
この人達酷いな。

第三幕 バカと代表とクラスメイト (後書き)

感想等待着てます。

第四幕 バカと自己紹介とクラスメイト

リクオ side

「すみません、通してください。」

この人誰？大人だから先生だと思っけど。

「えっと私はこのクラス担任の…福原です。」

よく見たら黒じゃないか。

「えっととりあえず自己紹介を。廊下側から。」

適当だ。後絶対他にいるよね。首無しとか毛嬢楼とか。

「僕は木下秀吉じゃ。一年間よろしく頼む。あと明久は僕の大切な人じゃからだしたら閻魔大王は優しすぎるとおもえるようにしてるのじゃ。」

つまり、地獄以上の恐怖か。というより男子の制服着てるから男子だよな？

「土屋康太。」

短いよ、それ以外無し！

「モブキャラ多すぎ。」

「ドイツ生まれなので英語は苦手」

女子だ、珍しい。

「はろはろー、吉井よ」「島田さんなんて死んでしまえ、死んで！」
「なんで！」

二人に何があつたんだ？

あと大事なんだろ二回言ったし。

しばらく続き

「僕は吉井明久。気軽に皇帝陛下と呼んでください。」
「うわー。」

「校庭兵火ー！」×42

変換ミスじゃないはずだ。本人達が間違えてる。

「忘れてください。」

「遅れてすみません。」
遅刻がまだいたのかな？

第四幕 バカと自己紹介とクラスメイト (後書き)

感想やリクエスト待ってまーす。

第五幕 バカと自己紹介と姫路瑞希

リクオside

誰だ？あの人。見たことない。

「姫路さん。」

明久が手を振ってるということは知り合いかな？

「吉井君？」

何故あちらは疑問系？

「えーと、姫路さん自己紹介を。」

黒が教師勤まるか不安なんだけど。

「えっと、姫路瑞希です。よろしくお願いします。」

ひめ、じみずきとか言われそうだな。

「あのなんているんですか？」

どういう意味かな？

「明久、姫路さんは有名人なの？」

明久、そこまで驚かないでくれ。

「姫路さんは成績は上位に必ず入っている上に発育良好。否のうちどころがないよ。」

ふーん、最後はあれだろ、明久の好みなだけだろ。

「えっと、試験の時、熱で…」

ならこのクラスでもおかしくないな。

「熱？ああ、化学の奴だろ、あれは難しかった。」

はい？

「俺は弟は事故つたらしくて…」

「彼女が寝…」

「裁きの時だ！殺つてやる！いくぞ！この学年の平和の為に！」

「おお！」xもぶ男子

バカというより残念すぎる

「とにかくよろしくお願いします。」

あつ、明久の横だ。

第六幕バカと自己紹介と 試召戦争計画

リクオside

「雄二、リクオ、お話があるんだけど。」

何の話？

「後で話すよ。それより姫路さんは体調大丈夫なの？」
自分が話持ってきて、それよりはあんまりと思う。

「よ、吉井君？と坂も…？」

雄二は途中までしか覚えてもらってない。ドンマイ。

「坂本だ。宜しく頼む。」

「いえ、こちらこそ。」

礼儀正しいなー。

「そこ、静かにしてください。」

黒、そこは見逃してよ。

ダン！バラバラバラ

「換えをとってきます。ちゃふだいが折れてる人は言うてください。」

「

何故？やっぱり…

「木工用ボンドを持ってくるので。」

「よし、今だ明久、リクオ、廊下に行くぞ。」

「ああ」x2

「実は僕、試召戦争を仕掛けようと…「秀吉と姫路の為か？」くそ！何故わかったんだ！」

やっぱりそうだろうと思った。でも秀吉は男じゃないか。

「まあいい、俺もしようと思ってたしな、あと姫路や秀吉、及川の為になるしな、だろ？リクオ。」

僕個人的に大丈夫だけど、つららとかは、きつそうだしね。

「おっと、戻ってきたやつがった、早く戻るぞ。」

そっついや、どこを攻めるんだろう？

第七幕バカと自己紹介と試召戦争計画2

リクオside

「坂本君、君が最後です。」

言うのか？雄二。

「俺は坂本雄二。呼び方はどうでもいい。それより……
やっぱり言うんだな。理由は知らないけど。」

「俺はAクラスに試召戦争を申し込もうと思う。」

何故一番上なんだろうか？

「俺達が勝てる分けないだろ。」

「姫路さんと結婚したい。」

「これ以上、設備落としたくない。」

「つららちゃん、僕と楽しいことしようよー、グベラッ！」

ナイスタイミング！変質者は早めに退場しないとね。

「勝てる要素はある。まず、あそこで、及川と姫路のスカートをのぞいてるのがムツツリーニ（寡黙なる性識者）だ。」

「キャッ。」

「なんだってー！」x42

そこまですごいんだ、ムツツリーニというあだ名は。

「リクオ様、じゃなくて若、どういう意味ですか？」

この人、僕を地獄に導く気か？

「だめじゃないか、つらら。僕はリクオだからね。」

変な誤解が出る前に。

「せっかく虚位の下着はリクオ様の好みにあわせたのに。」

僕の好みっていったい何だ？

「話進めるぞ。姫路、リクオ、つららはうちの主力だ、期待している。」

へー、ぼくって主力に入ってるんだ。

「吉井明久だっている。」

空気が重くなった。

第八幕 バカと戦争と戦線布告

リクオside

「吉井明久？」

「知ってるか？」

「俺は知らん。」

「俺も。」「俺も。」「俺も」…

数分前に自己紹介したばかりだよな？

「よく聞け、明久は観察処分者だ！」

それは、もしか？

「バカの代名詞！」

やばい、なぜ、九割の男子がハモったんだ？

「ちがうよ、ちよっとお茶目な…」

そいつは違うだろ。

「ああ、バカの代名詞だが、簡単にはなれない。成績最悪な上に問題を起こしまくった生徒のみに送られる、バカの極みには最高の勲章だ！」

あつかいひどいな。

「明久、特別仕様の説明しておけ。」

「僕と召喚獣はリンクしていて僕が命じたことを意のままにできる万能型さ。」

「明久、痛みを伴う件を忘れてるぞ。」

「別にいいじゃないかー！」

「うるさいから宣戦布告にいつてこい。」

下位の死者は酷い目にあう。

「絶対痛くなるよね？」

明久が気づいてる。すごい。

「大丈夫、俺を信じる。」

信じちゃ駄目だと思うのは僕だけ？

「行ってくるよ。」

ギヤアアアアアア!

明久の悲鳴じゃありませんように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0175y/>

バカと妖怪と召喚獣

2011年11月27日23時00分発行